

大学教員による提案的授業実践の意義

—地域貢献と授業改善と—

(国語教育講座) 三浦和尚

The Significance of the Proposed Specific Teaching Practice by the University Teachers —With Local Contribution and Class Improvement— Kazunao MIURA

(平成27年7月6日受理)

抄録: 教員養成に深く関わる立場として、地域の小学校において公開研究授業を行った。授業を行った学校のその前後の取り組み、また、その授業を観察した大学院生が、その授業を基にどのような研究的考察を行ったかについて紹介し、大学教員が研究的視点を持って現場で授業をすることの意義・波及効果が認められたことを、現場の指導改善、大学院の授業改善の視点から具体的に明らかにする。

キーワード: 俳句(HAIKU) 鑑賞指導(Apreciation instruction) 地域連携(Regional alliances)
学校研究(Study in the school) 授業改善(Class improvement)

はじめに

大学の教育学部の教員は、教育理論に精通し、学校現場の教員は、教育実践の知識・技能に精通している。それはある意味当然のことである。時として、教育学部の教員なら学校現場で授業やクラス経営ができるはずだという人がいるが、それは、植物学の教員なら盆栽が栽培できるだろう、経済学の教員なら株で儲けることができるだろうというのに等しいくらいの誤解である。

ちなみに私は、附属小学校校長時代、小学校1年生の教室で1時間の授業を一人でして、学級崩壊とはこういう過程を経て起こるものなのだという事実を目の当たりにした。

授業で子どもたちを引き付けるためのノウハウ、問いかけの調子などの話し方、子どもの動きに対する反応、「例えば…」と切り出すときの具体的な話の材料等々、現実の教室を動かす実践力は、理論では尽くせない呼吸が求められている。基本的に私は、小学校の先生に教材研究の一定の時間を与えれば、高校の授

業は何とかできるかもしれないが、高校の先生に少々時間を与えても、小学校1年生の授業は多くの先生はできないだろうと考えている。いわんや大学の教員をや、である。それは、どちらが立派とかいう問題では決してない。専門性が違うというだけの話である。

しかし一方、現場の授業の改善を図るために理論的にアプローチし、その理論を具体的な授業のかたちで示すことは、決して無意味なことではない。そこでは、いわゆる一般的な「よい授業」を超えて、学校現場の教師に何かヒントが得られるような、提案性のある授業実践が期待されていると言える。授業としては失敗に近くても(失敗してもいいというのではなく、結果的に失敗に近くても)、そこになにがしかの現場実態改善のための提案があれば、それは意味あることではないか。

「研究授業が研究的かどうかは、授業の成功・失敗ではなく、その授業に提案性があるかどうかである」

その一点で、以下のような小学校での授業を行った。大学教員がこういう形で現場で授業を行うことの意味を、改めて確認することが、本稿の目的である。

I 研究的授業実践の実際

1. 対象 松山市立立岩小学校4. 5. 6学年(14名)

2. 期日 2014年7月16日(水)

3. 単元名 俳句を楽しもう

4. 指導のねらい

今回は、「俳句に親しみ、俳句を楽しむ」ことを第一に考えた。そのために「解釈を統一しない」ことを徹底したい。また、親しませるために、子どもたちの感覚で捉えやすい句を配置したい。一茶の句は既習の学年もあるので、モデル的に提示しておき、その後3句を比較・鑑賞する。

5. 本時の指導(全1時間扱い)

○本時の目標——言葉のリズムを楽しみながら、言葉にこだわって俳句の世界を豊かに想像する。

○本時の展開

1. 導入

・俳句の既習事項の確認

2. 3句を斉読する。

学習材3句を読む

・小林一茶「雪とけて村いっばいのこどもかな」

・細見綾子「菜の花がしあわせそうに黄色して」

・与謝蕪村「菜の花や月は東に日は西に」

・範読 斉読

3. 一茶の句の情景をとらえる

・この句を読んで、どんなことやものが見えますか。

4. 細見・蕪村の句の情景をとらえる

・この句を読んで、どんなことやものが見えますか。

・二つの句に共通する題材「菜の花」のイメージが違うことを明らかにする。

5. 好きな作品について話し合う

・視写(好きなものの順番に視写)

・どの句が好きか理由とともに発表させる。

・討論に近い形で進行する。

6. 好きな作品をたしかめる

・一番好きな句を視写・暗唱

7. 学習のまとめ

・「短い言葉からたくさんの想像ができる楽しさ」としてま

とめる(ことができるような展開にしたい)。

○板書計画 <略>

○評価 ・リズムを感じながら俳句を声に出して楽しむことができたか。

・情景を想像することで、作品世界の広がりをとらえることができたか。

6. 授業記録

T1 今、校長先生から紹介していただきましたが、名前は三浦と言います。みうら。

C1 みうら

T2 三浦です。校長先生とはもう20年くらい前に知り合ってお友達です。去年、実は立岩小学校に来ただけで、覚えてるかな。覚えてないよな。ちょっとみんなが授業しているところを見させてもらったんだけど、今日は俳句のお勉強を。今日のお勉強はね、正解がない。これは間違っているけど、これは正しいよっていうことがないお勉強です。みんなが考えたことは全部正しいよ、というお勉強だから、間違っているかなとか考えずに、私はこう思いましたよということを発表してください。

C2 はい。

T3 それでは、はじめの俳句です。

※(板書「雪とけて村いっばいのこどもかな」)

C3 (読み始める)

T4 お、覚えてる?

これ、小林一茶の俳句だって分かった子は、何年生?

C4 (各学年手を挙げる)

T5 みんな分かったのか。言われたら思いだした?これは教科書で習った?

C5 (うなづく)

T6 一回読んどこうか。先生が読むから、その後に続けて読んでください。

C6 はい。

T7 雪とけて村いっばいのこどもかな

C7 雪とけて村いっばいのこどもかな

T8 お、なかなか元気がいいね。

この俳句を読んで、どんなものが見えますか。どんなものが見えますか。

C8 雪が降っていて外で遊べなかった子どもが、雪が溶けた後に一斉に村に出て遊んでいる。

T 9 一斉に出てきて遊んでいる。

C 9 雪が溶けて、村の子どもたちが楽しく遊んでいることが浮かびます。

T 10 雪が溶けて、村の子どもたちが楽しく遊んでいる。どんな遊びをしているかな？雪とけて村いっぱいの子どもが楽しく遊んでいる。

C 10 昔の遊びです。

T 11 昔の遊び。おおー。それは、小林一茶という人が昔の人だから、その頃の子どもはと考えたのかな。昔はどんな遊びをしたのかな？

C 11 (口々に答える。)

T 12 けん玉、碁、あやとり、馬跳び。ゴム跳びは難しいかもしれないなあ。あったかもしれないなあ。べい独楽。

「雪とけて村いっぱいの子どもかな」といったときに、どんな遊びをしているのが一番そんな感じになりそう？けん玉かな？べい独楽かな？

C 12 走り回っていると思います。

T 13 走り回っている。どうですか。

C 13 いいです。

T 14 うん。いろいろだね。「雪とけて村いっぱいの子どもかな」と言ったときには、走り回っている子もきつといそうだね。

他にはどんなものが見えるかなあ。もうそのぐらいかなあ。屋根に雪が残っているって、すごいことを言ってくれたよね。そんなのでは、他に見える物はないかな。

じゃあ、子どもたちはどんな気持ちで遊んでいるかなあ。

C 14 楽しい気持ちです。

T 15 楽しい気持ち。うん、もう少し詳しく言えるかな。

C 15 雪がとけてこれで外で遊べるなあという気持ちです。

T 16 雪がとけてこれで外で遊べるなあ。ということは、これまではどうだった？

C 16 遊べなかった。

T 17 雪がいっぱい、外で思いっきり遊べなかったんだよね。そういうときに、雪がやっとなとけたぞということで、「雪とけて村いっぱいの子どもかな」

すごいなあ。こんなにみんながいっぱい言ってくれて、すごい想像ができたね。すごいすごい。実はね、こんなにすぐにみんながいっぱい言ってくれて、こんなにいい意見がいっぱい出ると思ってたから、ちょっと今から先生どうしようかなと思ってる。でもね、今日はね、もう二つ、俳句をもってきました。

※ (プリント配布)

T 18 三つ俳句があるから、二つ目と三つ目を見てください。名前は書いてもいいけど、後はまだ書かないでね。

※ (板書「②菜の花や月は東に日は西に ③菜の花がしあわせそうに黄色して」)

T 19 三つ俳句を持ってきました。ちょっと②番と③番続けて読んでみますが、先生の後について、さっきみたいに元気よく読んでください。

C 17 はい。

T 20 菜の花や月は東に日は西に

C 18 菜の花や月は東に日は西に

T 21 もう一回読んで。様子を思い浮かべられるかな。

菜の花や月は東に日は西に

C 19 菜の花や月は東に日は西に

T 22 はい。じゃあ、③番ね。

菜の花がしあわせそうに黄色して

C 20 菜の花がしあわせそうに黄色して

T 23 もう一回。菜の花がしあわせそうに黄色して

C 21 菜の花がしあわせそうに黄色して

T 24 はい。さあ、さっきみたいにこの句を読んで、様子を思い浮かべたら、何が見えますか。ちょっと二つそれぞれ考えて。何が見えますか。

聞いてみようか。じゃあ②番の方からね。「菜の花や月は東に日は西に」何が見えますか。

C 22 月が東にいて、日が西にいるということがわかりました。

T 25 そうだね。月は西で日は東というのもありうるのか。お月様とお日様とか両方に見えますということだね。

C 23 ②は夕方、日は西で夕日になっていて、菜の花が夕日に照らされているのだと思います。

T 26 おおー。菜の花が夕日に照らされている、というんだね。

他にはどうかな、君、さっき手挙げてたよね。ほとんど同じ？

C 24 (うなづく)

T 27 見た感じはどんな感じかな、様子としては。例えば、この学校のグラウンドに菜の花が咲いているとしたら、(窓の外を見て) どちらも山かなあ。どうなんだろう。

C 25 (笑い)

T 28 他にこんな感じかなあ、何が見えますよ、という人ないですか。

あるいは、月とかお日様とか菜の花はこんな様子ですよ、と

か。

さっきは菜の花が夕日に照らされたと言っていたけど、夕日に照らされた菜の花って想像できるかな？。

C 26 オレンジ色。

T 29 おお。おお。菜の花って本当は何色？

C 27 黄色。

T 30 黄色だね。きれいな黄色だよ。それが夕日に照らされると、オレンジ色みたいに見えるのかもしれないね。

他に何か見えるものはないですか。よし、じゃあこれはこのぐらいにしとこうか。

T 31 じゃあ③番。「菜の花がしあわせそうに黄色して」これは何が見えますか。お、挙がるなあ。

C 28 菜の花が黄色くなってきれいに咲いている。

T 32 菜の花が黄色くなってきれいに咲いている。うん。

C 29 春になってあたたかくなって、咲いてきて幸せだなあと思ったのもあるだろうし、仲間がいっぱいで、天気もいいなあとかいろんな幸せがあると思いました。

T 33 春になって咲いてきて幸せそうな様子っていうことと、仲間というのはみんなの仲間？

C 30 っていうか、いっぱい

T 34 菜の花の仲間？いっぱい咲いてきて、それが幸せだ。おお。すごいねえ。おもしろい意見だねえ。いい意見だねえ。さっき手挙げた人、まだいたよね。

C 31 菜の花は春に咲くから、黄色い色をしていて、幸せそうに仲間たちと一緒に咲いているんだと思います。

C 32 菜の花がきれいな黄色をして、仲間たちと一緒に楽しんでいる様子が分かります。

T 35 きれいな黄色をして、仲間たちと一緒に楽しくしている様子。

C 33 菜の花が幸せそうに黄色をして、幸せそうに咲いている様子が分かります。

T 36 菜の花が黄色で幸せそうに咲いている。菜の花が黄色で幸せそうっていうのは、感じとしては分かる？幸せそうで、黄色っていうのは。

C 34 黄色は幸せそうな色なので、菜の花は幸せそうなんだなあと思いました。

T 37 黄色は幸せな色だから、菜の花は幸せそうにと書いてあるんだということだね。

黄色は幸せな色なのか。幸せそうな色だね。

じゃあ、不幸せな色って何色よ。

C 35 黒、紫、青、茶色

T 38 不幸せな色は何色ですかと聞かれたら、黄色は出そうにないね、確かに。そんな気がしない？

赤は幸せ？ピンクとか。オレンジ。それはいろいろ感じ方で違ってきそうだね。あんまり黒とか灰色とかは幸せそうな感じがしないかもしれないね。

T 39 ②番の菜の花と③番の菜の花は、菜の花としては多分一緒だよ。だけど、②の俳句にある菜の花と③の俳句にある菜の花は、少し感じが違いますか。こんなふう違うよ、と違いが説明できる人いないかな？感じ方でいいよ。

「菜の花や月は東に日は西に」「菜の花が幸せそうに黄色して」難しい？

C 36 ②は夕日に照らされていて、③は昼間。

T 40 ②の菜の花は夕日に照らされているから、オレンジがかっているかもしれないね。色がちょっと違うかもしれないね。

C 37 ②は夕日もあるんですけど、月は外国から日本に向かって、東に向かって進んでいるけど、日は東から西に進んでいくから…うーん。

T 41 うーん。でも今、確かにおもしろいよね。月は日本の方へ来て、お日様は日本から外国の方へ行っているんだなあ。おもしろいねえ。いいなあ。そういう意見大好き、先生。

他にはどうか。菜の花の違いは。

C 38 ②の菜の花はオレンジ色で、③は黄色だと思います。

T 42 ちょっと色の感じが違っているんじゃないかということだね。③の菜の花の色は、本当にきれいな黄色なんだろうね。②は夕日に照らされているし、もう夕方だし、明るい黄色じゃないかもしれないね。そう考えると、この二つの菜の花はちょっと違うかな。

T 43 菜の花がどのくらいいっぱいあるかというところは、同じぐらいだと思う？これはそれぞれのね、みんなの感じ方だから。

一面にあるような気がすると思ったら、どっち？

C 39 ③番です。

T 44 ③番。それぞれの感じ方だからね。どっちでも。

T 45 じゃあね、今、俳句を3句読みました。それで、そのワークシートに一番好きな俳句と二番目に好きな俳句を写しましょうというのと、一番好きなわけを書きましょうというのがあります。三つあるから、一つは書かなくていいんだよね。③番が好きだったら、その一番好きな俳句のところに、③番の俳句を書く。いいかな。ゆっくり、丁寧に書き写してください。一番目と

二番目に好きな俳句と、一番好きな俳句はどんなところが好きなのかということを書いてください。お願いします。

※ (約5分後)

T 4 6 書けたかな。書けたかな。よし、じゃあちょっと、聞いてみましょう。一番好きな句、「①雪とけて」を選んだ人、ちょっと手挙げて。はい、4人。ありがとう。14人いるから

※ (板書「4/14」)

T 4 7 じゃあ、「菜の花や月は東に日は西に」こっちの方選んだ人。お、二人。

※ (板書「2/14」)

T 4 8 お待たせしました。③番「菜の花がしあわせそうに黄色して」これ選んだ人は、8人。

※ (板書「8/14」)

T 4 9 それぞれね、一番好きな俳句を…、あ、ちょっと待って。書かなかったの聞いてみようか。二つ書いたよね。ということは、一つ書かなかったよね。書かなかったのはどれでしょう。①番を書かなかった人、ちょっと手挙げて。

※ (板書「(2)」)

T 5 0 ②番。9。

※ (板書「(9)」)

T 5 1 ③番書かなかった人。3人。

※ (板書「(3)」)

T 5 2 あ、そうか。これ(②を指して)不人気ナンバーワン。かわいそうに与謝蕪村さん。偉い人なのに。これ聞いてみようかね。いや、不人気9人なんてとんでもない。これが一番いいんだという人が二人いたわけよね。この二人の人、これはどんなところがいいの。どんなところが好きなの。この二人の人に言ってもらおう。それじゃあ、A君。

C 4 0 えーっと、夕方だから、空もきれいだし、静かな感じがするから、きれいだからいいと思いました。

T 5 3 ほー。夕方空もきれいだし、静かな感じがする。どうですか。確かにこの句のところで、なんかどンドン盆踊りしてたりしそうにないな。

C 4 1 (笑い)

T 5 4 ねえ。静かな感じ。いいなあ。いい意見だね。うん。B君はどうですか。

C 4 2 日のある場所や月のある場所が色々なところに想像できるからおもしろいです。

T 5 5 あー、日のある場所や月のある場所がいろいろな所で想像できるからおもしろい。これもいい意見だね。あんまりこう

いうのは、たとえ14人のうち2人でもこれが好きという人は、好きな理由がはっきりしているね。

T 5 6 いやいやそんなことはない。これ(②)一番駄目だよという人いる？

おーっ、これに挙がったか。よしよし。えっと、C君。

C 4 3 これは個人の感想なんですけど、

T 5 7 そうそう個人の感想なのよ。いい悪いじゃないのよ。

C 4 4 なんか、静かな感じがなんか出そうで。

T 5 8 何が出そう？

C 4 5 なんか夕方って暗い感じがするじゃないですか。

C 4 6 分かる分かる

C 4 7 それで、暗い感じが僕嫌いなんですよ。

T 5 9 あはは

C 4 8 明るい感じの方が好きなんですよ。

T 6 0 うん、そうか、そうか。

C 4 9 だから、暗い感じが好きじゃないから。

T 6 1 うん。じゃあ、C君はこっち(③)にしたのか。明るい感じだから。暗い感じだったら、狸とか猪とかが出て来るかもしれない。え、そんなことはないか。

T 6 2 はい、じゃあ少ない方。これ(①)は、好きな人もあんまりたくさんはいないけど、嫌いな人もほとんどいないよね。この①番が好きな理由を言える人。(挙手少)4人いるよね。どこの誰だ4人は。(挙手)じゃあ、こっちから順番に一人ずつ一言ずつ言ってもらおう。

C 5 0 雪が降っていたとき、子どもたちは遊んでいなかったけど、雪が溶けて子どもたちがいっぱい集まって遊んでいる様子が伝わってきました。

T 6 3 うん。子どもたちがいっぱい遊んでいる様子が伝わってきた。

C 5 1 雪が溶けて子どもたちはうれしくて、元気よく遊んでいるのが伝わってきました。とても興味深い句だと思いました。

T 6 4 とても明るい句だったね。元気よく遊んでいる明るい俳句だったね。楽しそうに遊んでいる様子がね。

C 5 2 雪が積もるより、村の子は雪が溶けた方がうれしそうです。

T 6 5 これ、日本でいうとどの辺の村かな？

C 5 3 北海道じゃない。

T 6 6 北海道じゃないというのは。

C 5 4 (口々に答える)

T 6 7 少なくともどのあたりじゃない？

C 5 5 九州、那覇

T 6 8 那覇ではないな。北海道ほど降っているかどうかもちよつと、というぐらいかな。

C 5 6 はい。

T 6 9 春になってわーっと溶けて、溶けたぞーってね。はい。ちよつと気になることが、これ ① 嫌いという人、もし意見が言えたら。

C 5 7 はい。

T 7 0 はい、どうぞ。

C 5 8 僕は基本的にうるさいのが嫌いなので、想像するとめちやくちやうるさいイメージしか出てこないの、

T 7 1 ははははは。

C 5 9 僕は嫌いです。

T 7 2 なるほど。子どもらがうわーっと遊んでいるのが、うるさい。でも、遊ぶ時間はうるさく遊んでもいいんだよ。よく分かるね。気持ちがね。

C 6 0 僕は遊ぶのが、外よりも中で遊ぶのが好きだからです。

T 7 3 そうか。外よりも家の中で遊んでいる方が好きなら、外で遊んでいる気持ちが分からない。あー、そうか。なるほどね。

それじゃあ、こんどは③番。

C 6 1 Dさんがまだ。

T 7 4 あ、そうか、Dさん、ごめんね。

C 6 2 ②では、雪が降っている間、子どもたちが家の中で遊んでいて、外で遊ぶ方が楽しいと思っていて、雪が溶けてからは、

T 7 5 E君の反対だね。外で遊ぶのが楽しい。ずーっと閉じこめられていたからね。その子どもの気持ちがよく分かるよというDさんの意見でした。ごめんね、Dさんね。

T 7 6 それじゃあ、③番のこれがいいという人。今手を挙げている人、一言ずつとんとんとんと言おうかな。

C 6 3 「幸せそうに」がまず楽しい気持ちで、それに明るい気持ちになるから、③番を選びました。

C 6 4 幸せの黄色というイメージがあるからです。

T 7 7 幸せの黄色というイメージね。先生の頃には『幸せの黄色いハンカチ』という映画があったんだけどね。それは古すぎるね。

C 6 5 みんなはたくさん咲いていると言っていたけど、私はその反対で一輪ぐらいしか咲いてなくて、でもそれが一つだけだから輝いていて幸せそうに見えたんだと思います。

T 7 8 ああ、そうか。みんないっぱい咲いていると思ってい

たけど、Fさんは一輪ぽつと咲いたその黄色い色がとってもきれいいに見えて、幸せそうだなあと見えたんだね。すごいねえ。

実はね、実は先生もそういうふうな、菜の花畑がわーっとあるんじゃないかと、一輪じゃなくてもいいんだけど、ちよつとというのは先生も読んだ。でもそれは受け止め方だから、広い、幸せいっぱいという風に読んでもそれはいいんです。

C 6 6 菜の花の明るい感じがいいと思いました。

T 7 9 明るい感じがよかった。はい、ありがとう。

C 6 7 ③は、個人的な感想なんですけど、春だから暖かくて寒すぎず暑すぎずで気候が良くて、しかもあたたかい感じの俳句で、多分朝方に見たんだと思うんですよ。晴れていたんだと思うんですよ。だから、晴れていて明るい感じがするし、菜の花がきれいな感じですよ。

T 8 0 朝見たのか。朝起きてぱつと見たら、菜の花がきれいだなあと。で、幸せそうだなあ、今日も何かいいことあるかもしれない、みたいな感じ。うん、いいねえ。やっぱり、君は暗いのは嫌いなんだな。

C 6 8 (笑い)

C 6 9 菜の花の色が黄色で、一番目立つ色で、明るい感じがしたから選びました。

T 8 1 一番目立つ。明るい感じだね。そういうきれいだな。

C 7 0 菜の花が子どもたちと一緒にあって、幸せそうに黄色をしていて、きれいだなと思ったから選びました。

T 8 2 菜の花が幸せそうできれいだからね。

じゃあもうついでに、これはだめだよという人、だれが言える？ どうしてもこれは言いたい、どうしてここに8人も集まるかが分からないという人いない？ なんかないですか、言いたそうな人？ (挙手) じゃあ最後、一人言ってもらおう。

C 7 1 「しあわせそうに」という文字をもうちよつと他の字に変えたらいいと思います。

T 8 3 言葉を？ 文字だとここ(しあわせ)を漢字にするという手があるよね。言葉を？

C 7 2 うーん。幸せに関する何か。

T 8 4 心があたたかいとかいうような感じの言葉にしたい。それ、もしかしていい言葉が見つかったら、俳句で発表できるかもしれないよ。ただ、ここに言葉の数があるからね。「悲しそうに」だどことばの数が合わなくなるからね。俳句は五・七・五という音の数があります。

※板書 (五・七・五)

T 8 5 ありがとう。今みんなの意見を聞いて、一番はちよつと

変えた方がいいとか、あるいは一番じゃなくても、二番にしてたけどこれは三番に落とそうとか、なんか順番が変わった、みんなの意見聞いて初めに1・2・3番付けたけど順番変わったよという人、ちょっと手挙げて。

T 8 6 君変わった？ どういう風に変った？

C 7 3 ③②①から、②③①に変わりました。

T 8 7 ①はやっぱ駄目なんだな。

C 7 4 (笑い)

T 8 8 変わった理由を一言言える？

C 7 5 (頭を振る。)

T 8 9 こっちの方がいい気がしてきた？

C 7 6 (うなづく)

C 7 7 ①②③から③①②に変わりました。

T 9 0 ①②③から③①②？ こりゃ、総替えだな。

ちょっとそのわけが言える？

C 7 8 ②が最後になった理由は、少ししか意味がわからないことで、①が2番に下がったのも同じ理由で、③は菜の花が幸せそうに友達と一緒にいるというのが、私にとってもうれしく思ったからです。

T 9 1 なるほどなるほど。②は初めは意味がわからなかったけど、みんなが言っていることを聞いたら、あ、そういうことだったのかと。分かってみたらよく思えてきたということだね。

俳句読むときにはね、さっき「雪とけて村いっばいの」のときでも屋根に雪がまだちょっと残っているけどとかね、先生なんかは、村だから山の方にはまだ雪が残っている、そこで子どもが遊んでいるみたいだね。そんな想像をいっぱいいっばいする。その想像がどのくらいできるかで、その俳句のよさがね、少し変わってきたりする。だから、「何が見えますか。」ってはじめ聞いたけど、何が見えるか思い描ける想像をいっぱいすると、俳句の良さがだんだん分かってくると思います。プリントの最後に一番好きな俳句を書きましょうと書いてありますが、もうそれは今日はいいです。時間も来ましたので、これで終わります。今日はみなさんありがとうございました。

7. 授業後の児童の感想

・ 私は、俳句を作るのが好きです。短い17音で、詳しいことまでは書かれていないのに、気持ちが伝わるので面白いです。毎月俳句を作っているけれど、心に感じたことを俳句にするということが分かりました。自分で作った俳句も、みんなが言葉から想像し、分かってくれるのがうれしいです。

- ・ 俳句は人によって感じ方が違うということが分かりました。菜の花の俳句で、同じ菜の花だけけどちょっと色が違ったり、風景が違ったりしているので面白いと思いました。
- ・ 読者が違うと伝わり方が違う。例えば、「菜の花や…」をぼくは「幸せの黄色」と思いました。でも、〇〇先生は「一輪の花のよう」と感じたので、俳句って面白いなと思いました。ぼくに面白さと難しさを教えてくださってありがとうございました。
- ・ どんな場所や風景か、いつなのか、どんな感じなのかで頭が浮かびました。想像するとどんどん広がって、俳句のことを考えるのが前より好きになりました。みんなが風景を想像してくれるような句を作りたいです。
- ・ 自分が考えた俳句でも、他の人は全く違うことを考えているかもしれないと考えると俳句は楽しいです。好きな時間にもっと俳句を作り、他の人の俳句を見て想像したり考えたりしていきたいです。

II 学校現場の日常への波及

立岩小学校では、前述の提案授業のあと、それまでの授業や俳句集会を工夫改善していく動きが生まれた。以下は立岩小学校の研究収録(2015.3)からその姿を部分的に引用して示す(見出し等は適宜改めた)。

1. 参観の教師の感想

- ・ 安心して発言できる雰囲気やベースにあった。
- ・ 子どもの想像を広げる発問や、子どもの反応を糸口にしてさらに深めようとする問い返しがとても勉強になった。
- ・ 発問次第で、思考・想像・やる気が違ってきた。
- ・ 「選んだ理由」ならぬ「選ばなかった理由」の問いには、子どもの個性がよく表れており楽しかった。
- ・ 問い返しに反応する子どもの力を見直した。
- ・ 人の意見を聞いて変わったり反論したりと、俳句を詠む(想像する)のは楽しいと感じた。

【指導方法について考えられること】

- ・ 俳句集会では、読み手の考えは先に発表せず、多様な聴き手の想像を引き出す。
- ・ どのような想像も認め、褒め、教師も遠慮せずいいところを見つけて伝える。伝え合う楽しさをベースとする。
- ・ 発問や問い返しを通してどんどん想像を膨らませる。疑問の持ち方、膨らませ方を体験させることに価値をおく。

【新たな課題】

- ・ 友達と違った考えを自由に表現し合える風土作り
- ・ 語彙を増やす工夫
- ・ 想像を膨らませ、交流し合う時間の保障

2. 俳句の提案授業後の実践—俳句集会を中心に—

【1学期】各クラスの代表児童一名が自作の俳句短冊を持って二回読み、どんな思いで作ったかを発表。4句まとめて「感想を発表しよう」と投げかける。

【9月】各クラスの代表児童一名が自作の俳句短冊を持って二回読み、続いて全員が読む。作者自身の思いは語らない。教師が「友達の俳句を聞いてどんな様子が浮かびますか。」と問いかけ、「～な様子が目に浮かびました。」「～かなと感じました。」「～がわたしは好きです。」と自分の想像したことを言葉で伝え合った。

【10月】

〈俳句集会の考察〉

- ・ 俳句を読むだけにしたことはよかった。作者の思いに頼らず、聞いた人がどう感じたのかを交流することが多様な想像をかき立てる。
- ・ 発問の仕方では感想の述べ方は変わってくる。漠然と「感想を発表しよう。」ではなく、「どんな様子が浮かびましたか。」「何が見えますか。」と聞く自分が見えたものを自由に答えることができる。
- ・ ゆったりと聞いていくと、児童は自分なりの言葉で語る。しかし、限られた時間（約15分）の中でのやりとりは難しく言い放しになる。ある程度の時間を保障する必要がある。
- ・ 挿絵を描いた短冊を使用して発表していると、挿絵を見て、自分も同じように想像していると思いつく児童もいる。そこに限定されることもある。文字のみの短冊使用について検討したい。
- ・ 「神輿みがき」「お彼岸」など生活に即した語彙を増やす場もあった。季語の確認もできた。（児童の場合、「彼岸」と「曼珠沙華」のような季重なりについては、想像を楽しむ範囲で柔軟に取り扱うことにした）
- ・ 教師からの褒め言葉も今後活用したい。

【11月】

〈俳句集会の考察〉

- ・ 生活目標の反省と重ねていた集会を、俳句集会として独立させゆとりを持たせたことにより、想像を伝えるだけではなく、伝え合うことでさらに想像を膨らませる場が作れた。

- ・ 低学年も挿絵なしとした。多様な想像を聞くことで、本人の想像した映像がより膨らみ、クリアになったようである。後で、挿し絵を入れることを楽しんでいた。
- ・ 感想を述べた児童に、「『の』と『で』と『に』はどう違う？」「朝かな、夜かな？」など、教師が問い返すことで想像したものが一層色鮮やかに語られた。また、その場で想像を繰り返す姿も見られた。
- ・ 児童のよさを褒めると同時に、教師も鑑賞する一員となって想像を膨らませ、言葉にすることで、俳句を自由に豊かに楽しむモデルとしての役割を担うことができた。
- ・ 児童の想像を豊かにするための発問の工夫は今後も課題である。

3. 実践の考察

特別授業や俳句集会の見直しを通して、児童に言葉の力の伸びを実感している。例えば、「一つの言葉にこだわって、できるだけ詳しくその背景を読み取り、想像しようとする。」「友達と違っていても、堂々と表現する。」「想像を膨らませること自体を心地よく感じ、それを表現し合うことを楽しむ。」などである。さらに、今回の授業がもたらしたことは、言葉の力の伸びに限らない。俳句を作ったり鑑賞したりすることをこれまで以上に身近に感じ楽しみ、「いろいろあるから面白いんよ」と言う児童の変容にもつながった。

のびのびと自分の思いや考えを述べましようと呼ぶだけでは実現しない。児童の育ちの手応えを感じると同時に、何より大きいのは、教師の変容かもしれない。発問を工夫することで、読みが深まることを実感した教師は、一言の重みを感じつつ言葉を選ぶ。また、これまで実践していた方法にとらわれず、目的を確認する中で集会を工夫改善し続けた。同様の考えを詩の鑑賞にも活用し、児童の想像を引き出す教師もいる。

この研究を通して、私たちは、大学との連携の意味・意義を感じずにはいられなかった。迷いながら実践していることへの意味づけにより、自信を持って取り組みを改善・拡充した。何となく感じていたもやもやが、明確な課題として意識された。そこには、大学院生の参加による協議の深まりが機能した面もあり、連携の持つ意義を実感したのである。

おわりに

授業者は、授業の最後に児童たちに投げかけた。「俳句読むときにはね、「雪とけて村いっばいの～」のときでも屋根に雪がま

だちょっと残っていると、村だから山の方にはまだ雪が残っている、そこで子どもが遊んでいるみたいなね。そんな想像をいっぱいいっぱいする。その想像がどのくらいできるかで、その俳句のよさがね、少し変わってきたりする。だから、「何が見えますか。」ってはじめ聞いたけど、何が見えるか思い描ける想像をいっぱいすると、俳句の良さがだんだん分かってくると思います。」と。

私たちは、俳句を通して、言葉の力を育成しようとしている。決まった解釈を伝達するのではなく、想像する力を伸ばすための工夫こそ必要だと感じて取り組んでいる。

今後、身近に感じている俳句との関わりを見つめながら、言葉の力の育成に努めたい。

Ⅲ 大学院生の学びへの波及

愛媛大学大学院教育学研究科1年生山岡万里子(現職教員・高校籍)は、立岩小学校での提案授業を観察し、その研究協議にも加わった上で、自身の研究の材料として提案授業を取り上げ、次のようにまとめている。

「古典を学ぶ意欲を高める言語活動の研究—想像力を働かせてイメージ豊かに読むための支援—」

愛媛大学教育学研究科 山岡万里子

1 研究の目的

古典を学ぶ意欲を高めるには、古典を想像力を働かせてイメージ豊かに読む過程の中で、生徒自身に古典を学ぶ意義を実感させることが大切である。具体的には、古典を文学作品として深く読み味わうことで、時空を超えた異なる世界に魅力を感じたり、異なる世界の出来事について考える中でかえって自分自身についての理解を深めたりする経験の中で、生徒は各々古典を学ぶ意義を悟っていくのである。つまり、古典を読むのは楽しいことなのだと思わせることができたならば、生徒は自ずと学ぼうとするはずである。〈中略〉

そこで、生徒の古典を学ぶ意欲を高めるために、同じ指導目標のもとに行われた他の先生の授業における教師の支援とその成果について分析を行い、表現に即しながらも想像力を働かせてイメージ豊かに古典を読む力を養うための支援のあり方について考えたいと思い、本研究を行った。

2 研究の内容

(1) 授業の概要<略 本稿「I 授業実践の概要」に同じ>

(2) 授業分析の視点

俳句の世界を豊かに想像させ、俳句に親しませるために、教師がどのような仕掛けを作って、どのような支援をしているかという点について、授業力の四つの構成要素「児童生徒理解力」「教材解釈力」「授業構成力」「授業実践力」の観点に基づき、授業記録、批評会の記録を用いて分析する。

(3) 授業分析(教師の支援と生徒の反応)

ア 児童生徒理解力の視点から

それぞれ自分の考えを一生懸命述べる子どもの発言を一つ一つ確実に受けとめ、言いたいことがうまく言えない子どもに対しても、その意図をくみ取り、励まし認めることで、自由に自分の意見を言える雰囲気をつくり、子どもの表現意欲を高めている。

(ア) 一つの発想から抜け出せない子どもたちに対し、独創的な発想をほめることで、他と異なる意見を述べやすい雰囲気をつくる。

C37の「②は夕日もあるんですけど、月は外国から日本に向かって、東に向かって進んでいるけど、日は東から西に進んでいくから…うーん。」と月と日に注目した新たな意見を出しつつもうまくまとめられない子どもに対して、教師はT41「うーん。でも今、確かにおもしろいよね。月は日本の方へ来て、お日様は日本から外国の方へ行っているんだなあ。おもしろいねえ。いいなあ。そういう意見大好き、先生。」と述べ、その意図をくみ取った上で、その独創的な発想をほめている。実は、その発言の前段階で、③の俳句について何が見えるか聞いたところ、

C28 菜の花が黄色くなってきれいに咲いている。

C29 春になってあたたかくなって、咲いてきて幸せだなあと思ったのもあるだろうし、仲間がいっぱいいて、天気がいいなあとかいろんな幸せがありました。

C31 菜の花は春に咲くから、黄色い色をしていて、幸せそうに仲間たちと一緒に咲いているんだと思います。

C32 菜の花がきれいな黄色をして、仲間たちと一緒に楽しんでいる様子が分かります。

C33 菜の花が幸せそうに黄色をして、幸せそうに咲いている様子が分かります。

と、類想が続き、想像がなかなか広がっていかないという現状を見取った上で、違う視点から見た意見をほめることで、どんどん異なる意見を出させようという意図があったと考えられる。

また、一番好きな句・好きでない句の人数確認をした後も、最も少ない人数だったところの意見から聞き始めている。子どもが答えた後は、T54「静かな感じ。いいなあ。いい意見だね。」とほめている。このような声かけや、少数意見こそ尊重する姿勢があったからこそ、その後、いつもはおとなしいという女子児童が、C65「みんなはたくさん咲いていると言っていたけど、私はその反対で一輪ぐらいしか咲いてなくて、でもそれが一つだけだから輝いていて幸せそうに見えたんだと思います。」と、堂々と人と異なる自分の意見を言えたのだと考える。

イ 教材解釈力の視点から

(ア) 最初に子どもが情景を描きやすい句を持ってきて、俳句への関心を高める。

「俳句に親しませるために、子どもたちの感覚でとらえやすい句を配置した。特に最初の句は、生徒が習ったこともあるものをモデル的に提示した。」という指導者のねらいは、子どもの反応を見て的的確であったと考える。最初の俳句を提示したときの反応は、

※ (板書「雪とけて村いっばいのこどもかな」)

C3 (読み始める)

T4 お、覚えてる?

これ、小林一茶の俳句だって分かった子は、何年生?

C4 (各学年手を挙げる)

T5 みんな分かったのか。言われたら思いました?これは教科書で習った?

C5 (うなづく)

と、全員知っているという感じで、その後の「何が見えますか」という問いから続く発問にもほとんどの子どもが挙手をしてきたことから、この句は授業者の言う通り「子どもの気持ちと同化」しやすく、楽しんで取り組める、導入にふさわしい教材であったといえる。

(イ) 同じ素材を詠んだ句を比較することで、多様な想像を可能にする。

菜の花の2句は、それぞれ単独で読むよりも、比較したほうが具体的に情景を描きやすい。例えば、②の俳句だと、月・日があることから外で、野原にたくさん咲いている菜の花を思い浮かべやすい。実際、子どもも、

C23 ②は夕方で、日は西で夕目になっていて、菜の花が夕日に照らされているのだと思います。

と述べていた。この情景と比較して③を見た時のほうが、先のC65の子どものように、「一輪だけ咲いている」というような柔軟な発想が生まれやすいように感じる。③を単独で読むと、菜の花を道ばたにたくさん咲いているという固定概念のみでとらえる可能性が高いという素材の特性を踏まえた上で、子どもの想像を広げるために、同素材の句を比較して提示したのは非常に有効であったと考える。

ウ 授業構成力の視点から

「個→集団→個」の学習形態をとり、いろいろな人の意見を聞くことで読みや想像を深めた上で、最後に自分の読みを再構築する時間をとることで、個人の読む力を育て、自己の成長を実感させる。

授業では、以下の通り、みんなの意見を一通り聞いた後、もう一度自分で3つの俳句を好きな順に並べ直すという活動で個の振り返りの時間を保障していた。

T85 ありがとう。今みんなの意見を聞いて、一番はちょっと変えた方がいいなとか、あるいは一番じゃなくても、二番にしてたけどこれは三番に落とそうとか、なんか順番が変わった、みんなの意見聞いて初めに1・2・3番付けたけど順番変わったよという人、ちょっと手挙げて。

T86 君 変わった? どういう風に変った?

C73 ③②①から、②③①に変わりました。

T87 ①はやっぱ駄目なんだな。

C74 (笑い)

T88 変わった理由を一言言える?

C75 (頭を振る。)

T89 こっちの方がいい気がしてきた?

C76 (うなづく)

C77 ①②③から③①②に変わりました。

T90 ①②③から③①②? こりゃ、総替えだな。

ちょっとそのわけが言える?

C78 ②が最後になった理由は、少ししか意味がわからないことで、①が2番に下がったのも同じ理由で、③は菜の花が幸せそうに友達と一緒にいるというのが、私にとってもうれしく思ったからです。

T91 なるほどなるほど。②は初めは意味がわからなかつ

たけど、みんなが言っていることを聞いたら、あ、そういうことだったのかと。分かってみたらよく思えてきたということだね。

C 7 8の子どもの発言からは、友人の意見を聞いて、以前一人で考えたときは想像できなかった句の情景を思い描くことができた、つまり読みの視点を獲得ことができ、それに自分の価値観を突き合わせたとき、共感できたということが分かる。このように、授業を通して他者との交流から想像の広げ方、つまり読み方を学び、最後はその読み取ったことに対して自分はどうか、自分に引きつけて読むという自己読みに帰ることこそが、読みの力をつける上で大切だということに気付くことができた。また、今回は時間の都合で難しかったが、T 8 8のように意見が変わった理由を即座には言えない子どもも、書く時間を確保すれば、自己の考えの変容について考えることができるのではないかと考える。

エ 授業実践力の視点から

(ア) 全体図から焦点へと、俳句を視覚化し想像の世界へ誘う発問を通して、想像力を働かせて読むための読みの視点を獲得させる。

発問を順に見ていくと、まずT 8「この俳句を読んで、どんなものが見えますか。」

と、全体図をイメージさせた後、情景や行動を具体化していくために「こども」に焦点をしばり、T 1 0「どんな遊びをしているかな？」と問いかけている。その後も、

C 1 0 昔の遊びです。

T 1 1 昔の遊び。おおー。それは、小林一茶という人が昔の人だから、その頃の子どもはと考えたのかな。昔はどんな遊びをしていたのかな？

C 1 1 (口々に答える。)

T 1 2 けん玉、碁、あやとり、馬跳び。ゴム跳びは難しいかもしれないなあ。あつたかもしれないなあ。べい独楽。

「雪とけて村いっばいのこどもかな」といったときに、どんな遊びをしているのが一番そんな感じになりそう？けん玉かな？べい独楽かな？

C 1 2 走り回っていると思います。

T 1 3 走り回っている。どうですか。

C 1 3 いいです。

T 1 4 うん。いろいろだね。「雪とけて村いっばいのこどもかな」と言ったときには、走り回っている子もきつといそうだね。

他にはどんなものが見えるかなあ。もうそのぐらいかなあ。屋根に雪が残っているって、すごいことを言ってくれたよね。そんなのでは、他に見える物はないかな。

じゃあ、こどもたちはどんな気持ちで遊んでいるかなあ。

C 1 4 楽しい気持ちです。

T 1 5 楽しい気持ち。うん、もう少し詳しく言えるかな。

C 1 5 雪がとけてこれで外で遊べるなあという気持ちです。

T 1 6 雪がとけてこれで外で遊べるなあ。ということは、これまではどうだった？

C 1 6 遊べなかった。

T 1 7 雪がいっばいで、外で思いっきり遊べなかったんだよね。そういうときに、雪がやっととけたぞということで、「雪とけて村いっばいのこどもかな」。

すごいなあ。こんなにみんながいっばい言ってくれて、すごい想像ができたね。すごいすごい。実はね、こんなにすぐにみんながいっばい言ってくれて、こんなにいい意見がいっばい出ると思ってなかったから、ちょっと今から先生どうしようかなと思ってる。

と細部までイメージさせるための発問を重ね、子どもの行動と書かれてはいないけれどもその行動に表れた心情まで想像させている。この発問に答える活動を通して、生徒は書かれてある言葉から想像力を働かせてイメージ豊かに情景や心情を読みとる方法を学んでいるのである。

(イ) 生徒の発言を生かしてさらに発問を焦点化し、想像を広げる。

T 2 4 じゃあ②番の方からね。「菜の花や月は東に日は西に」何が見えますか。

C 2 2 月が東にいて、日が西にいるということがわかりました。

T 2 5 そうだね。月は西で日は東というのもありうるのか。

お月様とお日様とか両方に見えますということだね。

C 2 3 ②は夕方、日は西で夕日になっていて、菜の花が夕日に照らされているのだと思います。

T 2 6 おおー。菜の花が夕日に照らされている、というんだね。他にはどうかな、君、さっき手挙げてたよね。ほとんど同じ？

C 2 4 (うなずく)

T 2 7 見た感じはどんな感じかな、様子としては。例えば、この学校のグラウンドに菜の花が咲いているとしたら、(窓の外を見て) どちらも山かなあ。どうなんだろう。

C 2 5 (笑い)

T 2 8 他にこんな感じかなあ、何が見えますよ、という人ないですか。あるいは、月とかお日様とか菜の花はこんな様子ですよ、とか。

さっきは菜の花が夕日に照らされたと言っていたけど、夕日に照らされた菜の花って想像できるかな？

C 2 6 オレンジ色。

T 2 9 おお。おお。菜の花って本当は何色？

C 2 7 黄色。

T 3 0 黄色だね。きれいな黄色だよ。それが夕日に照らされると、オレンジ色みたいに見えるのかもしれないね。

②の句はC 2 2、C 2 3以降なかなか想像の広がりを見せなかったのだが、T 2 8の発問で、C 2 3の子どもの「菜の花が夕日に照らされている」という発言を生かすことによって、更なるイメージ化に成功している。

(ウ) 類想を打ち破り、想像を広げるための発問の工夫

③の俳句では、アの児童生徒理解力の項で述べた通り、一人の子どもに引きずられて皆同じようなC 3 2「菜の花がきれいな黄色をして、仲間たちと一緒に楽しんでいる様子が分かります。」という意見が5人ほど続いたところに、指導者が

T 3 6 菜の花が黄色で幸せそうに咲いている。菜の花が黄色で幸せそうにっていうのは、感じとしては分かる？幸せそうで、黄色っていうのは。

C 3 4 黄色は幸せそうな色なので、菜の花は幸せそうなんだなあと思いました。

T 3 7 黄色は幸せな色だから、菜の花は幸せそうにと書いてあるんだということだね。黄色は幸せな色なのかな。

幸せそうな色だね。

じゃあ、不幸せな色って何色よ。

C 3 5 黒、紫、青、茶色

T 3 8 不幸せな色は何色ですかと聞かれたら、黄色は出そうにないね、確かに。そんな気がしない？

傍線部のように「黄色＝幸せ」という固定観念に揺さぶりをかける発問をすることで、子どもが漠然と抱いていた発想を確かなものへと導いている。同じく、①の俳句の良さを発表したときに、

C 5 0 雪が降っていたとき、子どもたちは遊んでいなかったけど、雪が溶けて子どもたちがいっぱい集まって遊んでいる様子が伝わってきました。

C 5 1 雪が溶けて子どもたちはうれしくて、元気に遊んでいるのが伝わってきました。とても興味深い句だと思いました。

C 5 2 雪が積もるより、村の子は雪が溶けた方がうれしそうです。

T 6 5 これ、日本でいうとどの辺の村かな？

C 5 3 北海道じゃない。

T 6 6 北海道じゃないというのは。

C 5 4 (口々に答える)

T 6 7 少なくともどのあたりじゃない？

C 5 5 九州、那覇

T 6 8 那覇ではないな。北海道ほど降っているかどうかもちょうと、というぐらいかな。

C 5 6 はい。

T 6 9 春になってわーっと溶けて、溶けたぞーってね。はい。

と「雪がとけてうれしそう」という意見が続いたときに、突如「日本でいうとどの辺の村かな？」という発問を入れることで、句の世界についてより具体的に考えさせている。

このように、類想が続くときのためにも、読みの視点を与える発問の準備は重要だ。

(エ) 最初の問いに対する答えと、これから聞く意見とはほぼ同じになりそうだという子どもの状況の予測に基づき、様々な意見に触れさせるために、臨機の判断で「選ばなかった理由」

も発表させる。

ワークシートに一番好きな俳句とその理由を書かせた後、それぞれ挙手でどの句を選んだか尋ね、その後、それぞれ好きな理由を発表していく予定であったのだが、そのとき授業者は、

T 49 それぞれね、一番好きな俳句を…、あ、ちょっと待って。書かなかったの聞いてみようか。二つ書いたよね。ということは、一つ書かなかったよね。書かなかったのはどれでしょう。①番を書かなかった人、ちょっと手挙げ

て。と選ばなかった人数を調べ始めた。これは、先の人数を見たときに、最初に何が見えるか質問したときの反応とほぼ同じ結果であったので、発言内容も先とほぼ変わり映えがしないだろうと予測し、敢えて反対意見も聞くことで、対立する意見の中から自分の読みを構築させようとしたのである。

この臨機の判断が功を奏し、対立する意見を比較する形で聞いていったことで発表は非常に盛り上がった。子どもも立場が明確になったことで、自分の意見を出しやすくなり、意見の中には自分の価値観が十分に反映されていた。

T 56 いやいやそんなことはない。これ(②)一番駄目だよという人いる？

おっ、これに挙がったか。よしよし。えっと、C君。

C 43 これは個人の感想なんですけど、

T 57 そうそう個人の感想なのよ。いい悪いじゃないのよ。

C 44 なんか、静かな感じがなんか出そうで。

T 58 何が出そう？

C 45 なんか夕方って暗い感じがするじゃないですか。

C 46 分かる分かる

C 47 それで、暗い感じが僕嫌いなんですよ。

T 59 あはは

C 48 明るい感じの方が好きなんですよ。

T 60 うん、そうか、そうか。

C 49 だから、暗い感じが好きじゃないから。

この例のように、反対意見についても、挙手して堂々と述べており、傍線部の通り、自分の価値観と照らし合わせて判断していることが分かる。このように、作品から自己に帰るという読みは、①の俳句を選ばなかった理由を述べた次の例にも表れている。

C 58 僕は基本的にうるさいのが嫌いなので、想像するとめっちゃうるさいイメージしか出てこないの、僕は嫌いです。

C 60 僕は遊ぶのが、外よりも中で遊ぶのが好きだからです。

このように、自分の生活を背景とした本音が出ていることから、作品の鑑賞を通して自己を再発見するという文学としての目的も大いに達成できているといえる。

3 まとめと今後の課題

今回の分析で、表現に即しながらも想像力を働かせてイメージ豊かに古典を読む力を養うための支援のあり方について、多様な読みを引き出すための教材提示や発表形態の工夫、発問の組み立て方、「個→集団→個」の学習形態など、多くを学ぶことができた。特に自分の実践では、いつも個から集団での交流までで止まっており、それがゆえに人の意見から学ぶことは多いが自己の変化や成長は実感しにくいものとなっていたので、次回指導案を作成する際には、集団から個に帰って読みを再構築する過程をぜひ取り入れたい。

また、今回は解釈を統一しないことで、子どもがそれぞれの感性に従って、俳句の世界を豊かに想像できていた。古典を読む楽しみも、そこに描かれた世界を豊かに想像するところにあると考えるので、言葉に注目して本文に根拠を求めた上で、そこから想像を広げていくような授業を展開していきたい。そのためには、教材も想像力豊かに読めるもの、多様な解釈が可能なものという視点で選定する必要がある。また、生徒の素朴な疑問が、想像を広げる糸口になることもあるので、特に初読の段階での生徒の疑問をできる限り生かしたい。

IV 考察

1. 松山市立立岩小学校の実践について

立岩小学校では、II-1に見られるように、授業観察によってさまざまな教師の気づきが生まれている。例えば「発問次第で、思考・想像・やる気が違ってきた」と、発問の大切さに改めて気づいたり、「問い返しに反応する子どもの力を見直した」と、日ごろ確認できていない子どもの姿に気づいたりしている。これらはおそらく、次の授業の改善に生きていくものと思われる。

また、【指導方法について考えられること】【新たな課題】など、

日ごろの学校内での研修としての授業ではなかなか出てきにくい内容が、具体的な形で自覚化されているとも言える。

さらに、授業観察後の教師たちの気付きに基づいて、その後の『俳句集会』のあり方を見直すこととなった。例えば、Ⅱ-2の9月の集会では、子どもたちの俳句の相互の鑑賞場で、

「作者自身の思いは語らない。教師が「友達の俳句を聞いてどんな様子が浮かびますか。」と問いかけ、「～な様子が目に浮かびました。」「～かなと感じました。」「～がわたしは好きです。」と自分の想像したことを言葉で伝え合った。」

とあり、発問の質とその後のやり取りの留意点に改善の工夫が見られる。またそれが、10月では、

「発問の仕方感想の述べ方は変わってくる。漠然と「感想を発表しよう。」ではなく、「どんな様子が浮かびましたか。」「何が見えますか。」と聞くと自分に見えたものを自由に答えることができる。」

という形で自覚化され、定着の様子が見て取れる。

「Ⅱ-3実践の考察」では、

「この研究を通して、私たちは、大学との連携の意味・意義を感じずにはいられなかった。迷いながら実践していることへの意味づけにより、自信を持って取り組みを改善・拡充した。何となく感じていたもやもやが、明確な課題として意識された。そこには、大学院生の参加による協議の深まりが機能した面もあり、連携の持つ意義を実感したのである。」

と、大学との連携(大学教員の提案授業とその協議)の現場感覚としての意義が語られている。

2. 大学院生の学びについて

授業参観をした山岡万里子は、その後の大学院の授業の中で、この提案授業を文字化し分析の対象とした。それは、自身の研究テーマに関連して、「生徒の古典を学ぶ意欲を高めるために、同じ指導目標のもとに行われた他の先生の授業における教師の支援とその成果について分析を行い、表現に即しながらも想像力を働かせてイメージ豊かに古典を読む力を養うための支援のあり方について考えたい」という目的に基づいている。

その分析視点は、「授業力の四つの構成要素「児童生徒理解力」「教材解釈力」「授業構成力」「授業実践力」」のように設定され、それぞれの視点に基づいての具体的な考察がなされている。

自身の研究的な問題意識に基づいて、その示唆を提案授業に求めたこの営みは、先行文献の渉獵とはまた違った意味を持つてくるものと思われる。すなわち、具体的な授業中での呼吸のようなものも含めて捉えることができる、具体的な授業中の言

葉に基づいて、実践的に示唆を得ることができる、不明の点は研究協議やその後の教員(提案授業者)とのやり取りで確認することができるなど、現職教員の教育学研究科での学びとして、貴重なものになっているはずである。

こういった体験は、日常の学校現場での研修では得られにくいものであろう。山岡万里子は、現職教員としての嗅覚でその機会を的確に捉え、自身の研究を少しではあっても前に進める示唆を得たものと思われる。

おわりに

教育学部の教員の中には、平気で現場で授業ができるものもいる。しかし当然のことながら、教科内容(国語で言えば国語学や国文学、漢文学など)の専門家が、特に小学校などで一般的に言う「いい授業」ができるとは限らない。むしろそれは難しいであろう。子ども理解ができていないということ自体が、致命的になる局面もある。

ただ、教育学部に勤め、教員養成に携わっている教員が、それぞれの専門性の立場から、このような教材・内容の授業ができるのではないかと、自分の専門性から言うところのような授業を展開してみたい、といった提案を行うことは可能なのではないかと。

そういう意味での提案授業の「波及効果」を、具体的な授業をもとに明らかにした。

大学の地域貢献が言われる中、教育学部の地域貢献は何れともあれ優秀な教員の排出であるが、こういった形の地域貢献も、今後求められる時代に入ったと思われる。教育学部の教員も現場の学校教員も、教育の充実発展、子どもたちの学びの深さ、豊かさという点で、自己の存在目的は共有しているはずであり、その意味では、両者の垣根はうまく取り払われなくてはならない。

【補記】

- ・授業実践の場を提供していただいた松山市立立岩小学校に改めて感謝申し上げます。
- ・引用した立岩小学校の論考内容は、平成26年度日本教育公務員弘済会愛媛県支部優秀論文に選ばれた。
- ・本実践の記録に当たっては、愛媛県立松山北高等学校山岡万里子教諭の手を煩わせた。記して感謝申し上げます。